

## 乗鞍岳（朝日岳滑降）

91/1/13~14

佐藤 晶彦 他1名

1月13日(日) 晴のち雪 乗鞍高原スキー場一位ヶ原山荘(幕営)

12日夜、車で出発、中央高速を飛ばす。茅野あたりから小雪が舞いだし、島々より手前でチェーンを付ける。夜中の2時にスキー場に到着、信州大ワンゲルのBのO氏の紹介で、信州大乘鞍寮に泊めてもらう。

寮の駐車場に車を置かせてもらい、8時前に出発する。スキー場までは徒歩で約15分だ。日曜なのでリフト券売り場には、既に長い列ができています。スキー場最上部までは、1回券(¥230)4枚が必要だが、荷物代としてもう4枚必要なことがあるので確認して購入した方がよい。リフト終点は、標高2000m近い。昔は右手の樹林帯に入って、位ヶ原山荘へ向かったのだが、数年前から正面の尾根に切り開きができて登り易くなった。ルートを間違える心配も無いし、直接乗鞍山頂を目指すなら断然早い。

新雪が20~30cm積もったが、先行者のトレースがあるので楽だ。2450m付近で車道にぶつかると、我々は位ヶ原山荘の方へ北に進む。トレースはそのまま肩ノ小屋方面へ向かっているので今度はラッセルだ。場所によってはヒザ近くまで潜り、意外に苦労する。近道をしようと樹林帯に入ったが、かえってヤブの急斜面でタイムロスをしてしまったようだ。素直に車道を来た方がよかった。位ヶ原山荘近くにテントを張る。ここは乗鞍本峰からは遠くなってしまうが、大黒岳や富士見岳からの滑降ルートが集まってくる場所なので、周辺でのスキー滑降を楽しむにはBCとして最適だ。風当たりが少ないのも好都合だ。

天気は下り坂で、テントに入ってゆっくり昼食を取る。2時近くになって、やることもないので少し登ってみようと、雪が降る中を肩ノ小屋方面へ向けて出発するが、登るにしたがって風雪が強くなり、夏の大雪溪の斜面に出たあたりでホワイトアウトになってしまう。登ってきたトレースもどんどん消されてしまうので早々に戻る。下ると風が弱まり、テントまでの標高差80m程は、新雪滑降が楽しめた。夕方から夜にかけては、サラサラと雪がテントに降り積もる音が聞こえる程であった。

1月14日(月) 快晴のち曇 位ヶ原山荘一朝日岳-乗鞍高原スキー場

朝起きると、新雪でテントが半分程埋まっている。天気が悪ければ、帰りのラッセルを考えて、すぐに下山するところであったが、雲一つない快晴で、朝日が昇ると富士見岳、大黒岳がピンク色に染まって、とてもきれいだ。

本峰を目指して出発する。位ヶ原の台地に上がるまでは、雪が深く、スキーをはいてもヒザからモモ近くまであり、ラッセルに苦しめられる。メンバーがもう

2、3人いたらなあと思いつつ、雪が少なければ20～30分のところを2時間かかって、位ヶ原の2550mに荷物をデポする。ここからは肩ノ小屋まで、数m置きにボールが立っており、これに沿ってしばらく登る。登るにしたがって、積雪量は少なくなり、肩ノ小屋付近はヒザ下からブーツが隠れる程度で、肩より上部は、少しくラスト気味であったが、ブッシュや岩は出ていないので、今までのラッセルを考えれば快適に登ることができた。

次第に雲が上がってきて、見えていた槍穂高も隠れてしまった。朝日岳(2970m)に登ったところで、西側からガスが出てきた。風も強い。頂上はもうすぐだが、視界のあるうちに滑りを楽しもうと、ここから沢状の部分を下ることにする。昨日の雪が積もって、快適な新雪滑降だ。登りの苦労が報われる時だが、あっけなく終わってしまう。標高差で250m程滑ると斜度が緩くなり、直滑降でも進まなくなってしまった。仕方なく、登りのトレースに入るが、今度はボブスレーのような滑りでおっかない。

デポ地から先は、下りもラッセルになるかと心配したが、2、3人登ってきたので、そのトレースを使わせてもらう。彼らも我々の登りのトレースを使っているからお互い様だ。登りに使った切り開きを、所々新雪滑降を楽しみながらスキー場へ戻った。スキー場では、晴れ間も見え、穏やかな一日であったようだが、振り返って見た乗鞍岳は、午後はずっと雲の中だった。時間がまだ早かったので、スキー場で少し遊び、再び、信州大の寮のお世話になった。ここの風呂は温泉なのでありがたい。

翌15日は、半日券(¥2300)で、ゲレンデで遊び、今年からオープンしたゆけむり館(檜風呂、露天風呂、休憩所ありで¥500)でゆっくり休み、思いのほかすいていた中央高速を帰った。

